



万松寺

# はくび通信

第  
20  
38  
号  
20

## 「ありがとう」 ～有ることの難しさ～



さて、この時期の行事というと「お盆」が挙げられます。メキシコではこの日にマリーゴールドを祭壇やお墓に飾るそうです。だからというわけではありませんが、コロナの影響で出荷ができなくなり困っている生産者の方の一助になればと思い、当寺の境内にマリーゴールドを装飾しました。

マリーゴールドには、種類によつて様々な花言葉があります。「健康」「愛情」「真心」「悲嘆」などの他「逆境を乗り越えて生きる」というものもあります。新型コロナウイルスによる逆境を乗り越え、当寺や大須を訪れる方々の気持ちを盛り立てることができ幸いです。

初夏の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。日本では、新型コロナウイルス感染症（以下…コロナ）の感染拡大も落ち着き、少しづつ日常を取り戻しつつあります。当寺でも新しい様式を取り入れた行事の在り方を模索しています。

ご来寺の皆さんにもご不便をおかけすることがあるかと思いまますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

かつて、日本は戦争を経験しました。今でも中東では多くの方が紛争に巻き込まれています。戦禍の中では、命があり、生活ができることがあります。今回のコロナ禍では、自らの感染を顧みず医療に従事して下さった方をはじめ、拡大予防に協力した多くの方々の存在のありがたさに気づいたのではないで

しょうか？

現代では、感謝の意を表す「ありがたい」「ありがとう」の語源は、お釈迦様が阿難尊者に「人としてこの世に生を受けた」とたとえ話を用いて説いた「盲亀浮木（もうきふぼく）」のたとえ」にあるとされています。しかし、そうで有ることが当たり前の日常ではなかなか気がつくことはできません。以前「ありがとう」に関する講演で「ありがとうは、当（まさ）に有（あり）難（がたし）だから『有難当』ともいえる。そしてそれは『難』があつて初めて氣づくことが多い。言い方はよくないが、難が有るから『有難い』の意味が分かる」と聞いた時、なるほど納得した

この度の自粛、ステイホームといふ逆境の中で、日常というものがいかに「ありがたい」時間であったかということを思われた方もいらっしゃると思います。

当寺では、7月1日（水）から全受処を開出し、行事・法要へのご参加・ご参列いただけるよう準備を進めています。

従業員一同、ご来寺いただくなさまと再会できることに改めて感謝し、これからも日々精進してまいります。

人はそれぞれに「難」を経験し、有ることの「有り難さ」に気づき、「難」を乗り越えることで成長します。しかし大きな難を一人の力で乗り越えるのは限界があります。戦後の日本が一丸となつて復興・発展を遂げたように、今回のコロナ禍という逆境も、一人一人の力を合わせて一丸となつて臨めば乗り越えられると言じています。



# 住職の小噺



## 小噺

### 信長の妻「帰蝶」

天下統一を目指した夫織田信長を支え、戦乱の世を生き抜いた正室「帰蝶」。この当時の女性に関する史実を記した資料は存在乏しく、帰蝶の生涯もその多くが謎に包まれています。

今回は数少ない史実から推察されている帰蝶に関するエピソードをお話します。

そもそも「帰蝶」という名前も定かではありません。帰蝶という名前は、江戸時代に編纂された美濃国諸旧記に記されていますが、それ以降に編纂された武将感状記や繪本太閤記では「濃姫」と記されています。濃姫は美濃から來た高貴な女性ということで、このように呼ばれていたと推測されています。放送が中断となってしまったNHKの大河ドラマ「麒麟がくる」の再開を待ち望んで、ここでは「帰蝶」として話ををしていきます。

天文4年（1535）、帰蝶は美濃のマムシと恐れられた斎藤道三の娘としてこの世に生を受け、弱冠11歳で土岐家との和陸のために土岐頼純に嫁ぎ、翌年に頼純が急逝すると、今度は

織田家との和陸には信長の父信秀が関与したとされ、すでにこのときに信秀は帰蝶の才を見出していたのかもしれません。

実は土岐家との和陸には信長の父信秀が関与したとされ、すでにこのときに信秀は帰蝶の才を見出していたのかもしれません。

織田家との和陸にあたり、当時「うつけ者」として有名だった信長の度量を測りかねていた道三は「信長がまことにただのうつけなら、この短刀で刺し殺せ。」と帰蝶に短刀を渡します。すると帰蝶は「これは父上を刺す短刀になるやもしぬませぬ。」と言い返しました。これには「自分は敵国に嫁ぐ身であり、織田家の者になる覚悟が出来ている。そして信長がうつけではなく切れ者なら、逆に父が首を狙われるかもしませんよ。」という意味が込められています。この時、帰蝶は14歳。さすがマムシの娘、肝が据わっています。

また、大河ドラマ「麒麟がくる」では、信長が道三との初会見で道三勢の度肝を抜けたのは、帰蝶が

立派な着物を手配したとされました。両家を繋ぎ、陰で信長を支えた帰蝶という女性の生き様が垣間見えたようで面白かったです。

帰蝶は、信長との間に子どもはできませんでしたが、側室との間にできた子どもを我子のように大切に育て、他家との縁談を取りまとめていました。信長が戦に出ている間も城を守る帰蝶の内助の功があつたからこそ織田家が繁栄したのかかもしれません。

能力、主義の信長が、朝食は必ず帰蝶と食べていてることも、帰蝶の聰明さに魅かれていたかもしれません。

京都の總見院に帰蝶の墓があり、没年は信長の死から30年後の慶長17年（1612）とされています。殺伐とした日々を過ごした帰蝶の晩年が、心穏やかに過ごせていたことを願つてやみません。

※記載の内容には諸説あります。

万松寺住職

大藤 元裕

合掌



岡山県 N・Hちゃん



茨城県 S・Kさん



岡山県 T・Nさん



愛知県 M・Hさん



三重県 K・Uさん



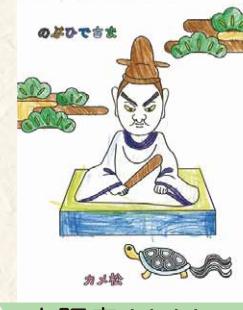
愛知県 R・Kくん  
N・Kちゃん



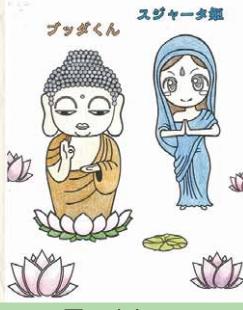
あんずちゃん



大阪府 S・Oくん



大阪府 M・Mさん



Toshiさん

天正10年（1582）、ついに本能寺の変が起ります。帰蝶は、城の者を護るために、信長がこよなく愛し、命ともいえる城を手放し日野城へと落ち延びました。

# これからの行事

7/12(日)  
8/9(日)  
~12(水)

## お盆 合同法要

新盆・旧盆の時期に万松寺納骨堂契約者様のご先祖様の供養を當みます。

※今回の合同法要是、各部のご参列人数を減らして、新型コロナウイルス感染予防に努めています。

8/12(水)  
15(土)

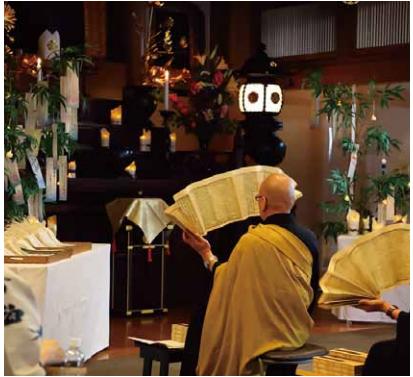
## 迎え火 送り火

「迎え火」では、12日の夕刻に松明を焚き、ご先祖様の精霊をお迎えします。「送り火」では、15日の夕刻に松明を焚いてお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りします。



8/25(火)

## 旧暦七夕



施食会では、私たちと縁の深い先祖様や無縁仏様、全ての精靈にお食事をお供えし、お経を唱え供養します。

8/24(月)

## 施食会

※コロナウイルスの感染状況により、行事・イベントは変更となります。詳しくはホームページをご確認ください。

### お申し込み・お問合わせ

万松寺学び舎

検索

052-1262-0735  
電話  
WEB  
万松寺学び舎  
お申し込み・お問合わせ  
参加費  
講師  
万松寺僧侶  
500円

詳しくは万松寺のWEBサイトもしくはお電話にてご確認下さい

## 大人の寺子屋

(万松寺住職との気楽なお茶会)

講師 万松寺住職

参加費 300円  
(お抹茶・お菓子付き)

開催日 7月5日(日)  
時間 10時半～12時  
(受付 10時)



会場 白龍館2F

## 万松寺の仏教講座

坐禅会 (定員…12名)

毎週日曜日 9時～10時

会場 本堂2F

写経会 (定員…20名)

毎月第1土曜日 16時～17時半

会場 白龍館2F

佛教勉強会 (定員…20名)

毎月第2・4土曜日 16時～17時半

会場 白龍館2F

写仏会 (定員…20名)

毎月第3土曜日 16時～17時半

会場 白龍館2F

詳しくは万松寺のWEBサイトもしくはお電話にてご確認下さい

万松寺学び舎

検索

## ご自宅で楽しく

## 写経・写仏にチャレンジ

たくさんの方にチャレンジしていただきました  
ほんの一部ですがご紹介させていただきます

ありがとうございました



河原若心經  
今知二年五月六日  
謹写

静岡県 Y・Nさん

十句觀音經  
觀世音 南無佛 与佛有因  
与佛有緣 佛法僧緣 常樂我淨  
朝念觀世音 慕念觀世音  
念念從心起 念念不離心  
令和二年五月二十日  
謹写

東京都 I・Nさん

十句觀音經  
觀世音 南無佛 与佛有因  
与佛有緣 佛法僧緣 常樂我淨  
朝念觀世音 慕念觀世音  
念念從心起 念念不離心  
令和二年五月二十日  
謹写

愛知県 H・Yさん

十句觀音經  
觀世音 南無佛 与佛有因  
与佛有緣 佛法僧緣 常樂我淨  
朝念觀世音 慕念觀世音  
念念從心起 念念不離心  
令和二年五月二十日  
謹写

北海道 K・Mさん

十句觀音經  
觀世音 南無佛 与佛有因  
与佛有緣 佛法僧緣 常樂我淨  
朝念觀世音 慕念觀世音  
念念從心起 念念不離心  
令和二年五月二十日  
謹写

愛知県 A・Sさん

# 万松寺日記

STAY HOME  
万松寺

## 開山忌

令和2年4月22日(水)

織田信秀の叔父で、万松寺初代住職大雲永瑞大和尚の命日に追悼法要を営みました。

## 春期不動明王大祭

令和2年5月28日(木)

身代不動尊のご真前にて災難消除、病氣平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈祷を行いました。

あわせて新型コロナウイルス退散祈願祭、納経いたいたい写経・写仏のお焚き上げ祈祷を行いました。

## 春姫忌

令和2年4月23日(木)

初代尾張藩主徳川義直公正室春姫様の命日に、菩提寺である当寺で、追悼法要を営みました。



## 感染予防対策

各受付に、アクリル板などを設置したり、ご来寺の方へ検温やマスク着用をお願いするなど感染予防対策を行っています。

## 白瀟閉堂

4月20日より閉堂いたしました。5月25日より一部受付の受付時間を変更して、開処いたしました。



▲チャーム付御守



▲新冠退散カード型御守



▲新冠退散ストラップ型御守

万松寺では、緊急事態宣言の発令をうけ、ご来寺による感染拡大防止のため、4月・5月に開催を予定しておりました行事や催しを中止または縮小とさせていただきました。また、従業員についても休業やテレワークなど感染防止対策を行いました。

自瀟閉堂に伴い、ホームページでの授与品依頼受付を始めました。新型コロナウイルス退散を祈念した授与品やマスクにつけられるチャーム付き御守の授与も始めました。

授与品のWEB申込開始

## 万松寺の永代供養納骨堂

お墓・供養のあらゆるお悩みにお応えします



万松寺納骨堂が選ばれ続ける3つの理由

1

由緒ある寺院による安心の永代供養

2

納骨後も安心な負担の少ない法要費用

3

駅から徒歩3分天候に左右されない屋内施設

0120-157-942  
または万松寺総合受付まで